

教員の実技指導力向上研修

松下電工株式会社 奥嶋建城

はじめに

技能は、元来人に帰属するものであり、人から人へと伝承されなければ廃れていくのである。つまり人間対人間の問題である。わが社では、企業内学校（工科短期大学校）にて、モノづくりの基本となる金型および設備製作に携わる技能者の育成に長年取り組んでいる。その結果、多くの優秀な技能者が現場で活躍している。

そこで「企業が社会的責任を果たしていくためには、人を育てることが不可欠の条件であり、そしてその人を育てるためには企業に課せられた社会的責任をしっかりと自覚することが必要だということになります」（松下幸之助著：企業の社会的責任とは何か？より）という松下伝統の考えをベースに、松下電工の企業内教育環境を活かして、優秀な技能を継続的に伝承するため、大阪府下の教員に直接伝授するという新たな取り組みに挑んだのである。

1. 実現した二つの研修

産学連携が大切だと常に言われているが、その具体的方法となると、なかなか事例に乏しいのが現実である。私は、大阪府の首席技能検定委員をするかたわら、府下の高等学校を訪ねる機会ができ、教育現場をつぶさに見ることがあった。NC、ME、IT化などと叫ばれ、一時は技能者不要論にまで発展し、高等学校の技能教育現場にNC、MC、レーザー加工機などが大きな顔をするようになっていく。更に、モノづくりの基本である手仕上げや汎用機械に触れたことの無い教員が多くなり、今となっては学校で建て直しの効かないところにまで来ている。「モノを作る前に人をつくる」というのと同様に「若手技能者を作る前に教員を作る」事が先ず先ず第一と考え、大阪府工業高等学校校長会との緊密な連携のもと、2006年度より旋盤作業の指導力向上研修、2007年度からは仕上げ加工の同じく指導力向上研修が実現した。教員の研修は、大阪府の場合、教育センターが行うのであるが、諸般の事情から校長会主催で実施することになったのである。教員は校務が多忙でなかなか長期間連続した研修は無理だということで、隔週のメリットを十分活かす方法を考えながらスタートしたのである。特に、会社の社風も感じ取っていただけるよう、初日、中間、最後には関係者も含めて交流会を行い士気の高揚をはかった。2008年度からこの二つの研修は、大阪府教育センター主催で実施できることとなり、継続したひかりもの研修として発展するものと考えている。

要は松下幸之助創業者の「企業の社会的責任とは何か？」に述べられていることをそのまま実践することになった訳で、社内の関係者の理解も得られ、マスコミにも取り上げられ、多大の成果があった。優秀な技能者の育成を、学校は学校で、企業は企業でと別々に取り組むのではなく、お互いに補完する形で行うことが必要ではないかと、思う。

2. 成果につながった受講レポート

各週で行ったので、各教員には一週間ごと次回にレポートを出してもらった。書く内容は各教員の自主性にし、自分のために役に立つものとして残しておくものにとだけ初めに申し上げた。手書きのもの、ワープロのもの、パソコンを上手に活用しているものや、指導書になるよう克明に教わったことをまとめたものまでいろいろであった。毎回、最後に所感を書いてもらいましたので、紙面の関係で、旋盤のみですが、その一部をご紹介します。

○研修前日の夕方、ようやく学校で機械に触る暇ができたので、1時間程度、旋盤の2点芯出しの練習

を積んでから研修に望みました。1点芯出しについては、研修の成果もあって自分でも早くなったと実感しております。作業の開始は、前回は2点芯出しをし終えたところからのスタートでしたので、2本目の練習に入って、さあ、昨日の学校で練習した成果が出せるかと思いきや、1本目の時以上に時間を要してしまい、散々な結果でありました。「もう40分ぐらいやっていますよ」と講師の先生の優しいお言葉に打ちのめされ(冗談です)、正直、これまでの研修で一番疲れました。学校では、厚さ1mmの銅版を使用したのですが、締める時の力加減が全くつかめませんでした。

○これが、6通目のレポートで、部品加工も3個目に入ったので、レポートの工程表もこれまでに無いほど、すらすらと早く書けました。繰り返し練習によって、作業内容の理解が深まり、工程が頭に入っている為だと、自信が深まりました。研修も残り2回、正味の実技研修はあと1回半となり研修のタイトルどおり、研修前に比べて確実にスキルアップしていると手ごたえを感じております。研修の機会があと2回しかないのは、大変悲しく名残惜しいですが、最後まで気を抜くことなく安全作業に心がけて臨みたいと思います。最終回の発表に少々プレッシャーを感じておりますが、研修で得た成果を存分に披露して研修の締めくくりにしたいと考えております。

○学校もテスト期間に入り、少しは自由な時間雑務に追われる日々であった。講師の先生の、「たとえ5分でも旋盤に触りなさい。毎日触るだけでも違ってくる」というお言葉を思い出し、部品1にチャレンジした。細切れの時間しか使えず、準備ができたかと思ったら即、後片付けの繰り返しであり、残念ながら完成させることはできなかった。本当は部品2まで完成させて失った自信を少しでも取り戻した状態で次の研修に臨みたかったのに、中途半端に終わってしまった。また学校のワシノの旋盤は、使い慣れた池貝の旋盤と違って、横送りハンドルの目盛りが半径表示であるため、いつも以上に考え込む時間が多かった。

等々、教員の熱心な気持ちが伝わってくるものばかりであった。

3. 教員自身の評価

各々受講された教員に次のようなアンケートをとりました。

1. 研修内容は期待に沿いましたか 2. 研修内容は理解いただけましたか 3. テキストは良かったですか 4. 講師の指導方法は適切でしたか 5. 友人・後輩にもこの研修を勧めますか 6. その他 5段階で集計した結果、4. 8 という高評価でした。特に5番目の、友人・後輩にもこの研修を勧めますか が全員5 だった点、この研修の継続に大いなる自信を得たのである。

その他コメントの中の一部をご紹介します。

○期待にたがわぬ内容だった。必ず良い成果が得られると思っていたし、まさにその通りだった。

○お世辞ではなく大変良かった。人物的にも魅力ある講師であったと思います。

○期間を夏季休業などを利用して連続的に行って欲しい。 等々。

4. 講師について

指導を担当した講師(匠)は、弊社の高度熟練技能者で、仕上げに2名、旋盤に2名の計4名が担当しました。

仕上げ主担当:古賀一基 仕上げ特級 機械組立仕上げ1級、金型仕上げ1級 治工具仕上げ1級
平面研削盤1級 フライス盤1級 職業訓練指導員 高度熟練技能者認定者
なにわの名工

旋盤主担当:山本輝夫 普通旋盤1級 平面研削盤1級 フライス盤1級 高度熟練技能者認定者
なにわの名工 職業訓練指導員